

ひらかわ あらた
平川 新

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

未来への航路

オズカとミアト

瑞巖寺を見学して松島に宿泊したビスカイノ一行は、12月18日から海路を進みます。あちこちに立ち寄りながら良き港を探していきませんが、これらと思う場所には日本語地名がスペイン語のつづりで書かれています。ところがこれがどこのことなのか、じつにわかりにくいのです。

たとえば松島を出発した船は、オズカ(Ozaka)に向かって船泊したとあります。これを牡鹿とする翻訳もありますが(ファン・ヒル「イタルゴとサムライ」)、そもそもまだ到達していない地名を書くこと自体が不自然です。そこには島が点在する大きな入江が

あり、2000トの船が停泊できる港があったと記されています。松島を出て島が点在する入り江のある場所といえば松島湾北東部ですが、そこには大塚という浜がありました。先のオズカに近い発音です。

その次に出てくる地名はミアト(Miata)で、これは石巻の湊(村)だと考えられています。近年、このミアトは宮戸(東松島

②③ビスカイノ探検記の地名はどこのことか

地名はどこのことか

市)のことだとする新見解も出てきました。が、ミアトの場所は、「豊かな川の海への注

ぎき口(河口部)だとするのは無理がありそうです。しかもミアトで大歓迎を受けたということですので、このミアト

は従来通り、北上川の河口部にある石巻の湊だと考えられます。湊は室町時代からこの地域の中心になっていた港町でしたので、ビスカイノ一行を大歓迎したとしても不思議ではありません。それに比べて、小さな海村の宮戸だと、どうかなあと

思います。コンダケとチキムラ

ビスカイノの記録を注意して読むと、ミアト(湊)を出てから水深が浅い湾に注ぐ川を見つけたとあります。その次に出てくる地名はコンダケ(Condake)ですから、牡鹿半島の小竹のことだと思われます。するとこの川は、北上川と牡鹿半島の間にあ



正保の国絵図(1645年)
石巻・月浦部分



石巻絵図(1830年頃)
東北大学図書館蔵

正保の国絵図(1645年) 松島湾部分
(国立公文書館デジタルアーカイブ)



ひらかわ あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館長に就任した。



東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26―31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館長に就任した。